

審判の手引き

1、主審の役割

※オーバールール・ボールマークの調査

いずれも必要だと判断したとき行ってよいが、自信を持ってジャッジすること。
ただし、ボールマークの調査を行うことができるのはクレーコートのみ。

※他のコートからボールが入ってきた場合の対処

他のコートからボールが侵入してきた場合は即座にレットをコールすること。
選手はレットをコールすることができないので注意すること。

※プレー中に選手が物を落としたとき

理由にかかわらず、身に附いている物をコートに落とした場合、ペナルティの対象となる。1回目のポイントは警告(レット)になり、2回目以降は失点となる。

※時間の計測

主審は必ず時計を持参すること。

練習 5分

ポイント間 20秒

(時間をオーバーしても特に問題がないと判断したときはとらなくてよい。)

エンド交代 60秒

(審判が「タイム」とコールし、30秒以内にプレーを始める。)

(セット間 90秒 審判が「タイム」とコールし、30秒以内にプレーを始める。)

※トイレットブレーク

女子3セットマッチの場合1試合に2回トイレットブレークを取ることができる。

トイレットブレークはセットブレーク時に取るのが望ましい。

着替えはセットブレーク時のみとする。

ただし、ダブルスにおいては1組で2回であり1人2回ではない。

したがって、ペアが同時に要求したときは、2人でも1回と数えられる。

また、ペアの1人が単独で2回トイレットブレークをとってしまったときはそのパートナーには権利はなくなる。

男子3セットマッチの場合1試合に1回トイレットブレークを取ることができる。

ダブルスにおいては、1組で2回取ることができる。

※この場合のみ選手はコートを離れることができるが、学連の付き添いが必要。

※メディカルタイムアウト

トレーナーまたはドクターの判断に基づいて、レフェリーまたは主審が許可すれば、次のエンド交代時、セットブレークの間にメディカルタイムアウト（MTO）を取ってケガや病気の手当ができる。

緊急を要する場合は、直ちに MTO が取れる。

MTO はトレーナーまたはドクターが実際に手当を開始した時に始まる。

MTO は 3 分を超えてはならない。

1 部位の症状につき 1 回のメディカルタイムアウトが取れる。

熱中症に関する症状は、1 試合につき 1 回だけ MTO が取れる。

筋ケイレンの場合、選手はエンド交代時またはセットブレークの時間内に限り処置を受けることができる。筋ケイレンの処置で MTO は与えられない。

※メディカルトリートメント

選手は、エンド交代時（90 秒）、セットブレークの時間内（120 秒）に手当を受けたり、ドクターから医薬品を受け取ったりできる。

手当は、2 回までなら MTO の前でも後でもとることができ、その 2 回は連続するエンド交代時でなくても良い。

手当のできない症状の場合には、メディカルトリートメントは適用されない。

2. ペナルティーについて

おもにスポーツマンシップに反する選手へのペナルティー。

（コードバイオレーション。略 C. V. ） 有効期間 1 日

1 回目 警告 2 回目 失点 3 回目以降 1 ゲーム失う

試合中、身につけている物をコートに落としたとき 有効期間 1 試合

1 回目 警告 2 回目以降 失点

3. セットブレーク・ルールについて

セット終了後の 120 秒間の休憩をセットブレークと呼ぶ。

セットが終了したら、そのスコアに関係なく選手はベンチに引き上げて休憩する。

90 秒経過したとき、アンパイアは「タイム」とアナウンスする。

このアナウンスによりプレーヤーは、前のセットのスコアが偶数ゲーム（6-4）なら元のエンドに戻り、奇数ゲーム（6-3）ならエンドを交代して、30 秒以内に新しいセットを開始する。

しかし、各セットの第 1 ゲーム終了後は、プレーは、連続的でなければならないという規則により、休憩なしでエンドを交代しなければならない。

4. アンパイアが 1 人だけの試合規則 (Solo Chair-Umpire—S.C.U.)

SCU で、ラインアンパイアのつかない試合における手順は、次のとおりとする。プレーヤーは、ネットの自分側のラインコールについて責任を持たなければならぬ。これは、ボールのアウト/インの判定について、プレーヤーがセルフ・ジャッジするということを意味している。

プレーヤーが確かなコールをできないボールは、グッドとみなされなければならぬ。また、プレーヤーがコールのとき、ボールがインだったかアウトだったかを決めるのに SCU からの「助け」を求めるることはできない。

プレーヤーの判定が明らかに間違いであると SCU が判断したときは、SCU はその判定を変更できる。

※ (1) 「アウト」または「フォールト」のコールを SCU にオーバールールされたとき、ボールを返球したかどうかに関係なく、そのプレーヤーは失点する。

※ (2) 明らかにアウトのボールをプレーしたとき、SCU は、「アウト(またはフォールト)」をコールする。

※ (3) 際どい判定で、オーバールールするには不適当と思われるときは、プレーヤーの判定を支持する。ラインコールは、直ちに行わなければならず、「アウト」がコールされるまでは、ボールはアウトとはみなされない。有効なアウトコールは、瞬間的になされるべきである。

その他は、JTA テニスルールブックに準ずる。